

# 会 議 録

## 1 会議名

令和4年度第4回直江津区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【協議事項】

令和4年度地域活動支援事業について（公開）

## 3 開催日時

令和4年6月10日（金）午後6時30分から午後8時15分

## 4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

## 5 傍聴人の数

1人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（副会長）、田中美佳（副会長）、磯田一裕、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、坂井芳美、田中 実、田村雅春、古澤悦雄、増田和昭、丸山岳人、水澤敏夫、水島正人（欠席者2名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

## 8 発言の内容

### 【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【青山副会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：丸山委員、磯田委員に依頼

議題【協議事項】 令和4年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

### 【小川係長】

・資料No.1 「令和4年度 直江津区地域活動支援事業採点総括表」

資料No.2 「令和4年度 直江津区地域活動支援事業その他特記事項等一覧」に基づき  
説明

前回の協議でご意見をいただいた「ベンチ等に地域活動支援事業と分かるように表示する」「ポスターを町内会の掲示板に掲示する分を用意する」「新聞折り込みをする場合は、配布区域に留意する」という点は、該当する事業の提案者に、事務局から伝えることとしたい。

#### 【青山副会長】

提案事業の採否については、今ほどの事務局より説明いただいた結果のとおり、12件が採択、1件が不採択となった。特記事項が委員の皆さんより意見が出ている提案について、1件ごとに採択にあたっての条件や留意事項として付すのかを決定したいと思う。また、不採択事業について、不採択の理由をお聞きしたいと思う。

それではNo.1から協議していきたいと思う。

「No.1 クリーンナップ上越in五智事業」については「看板、トラックリース料は減額したほうがよい」という意見の記載があった。

#### 【磯田委員】

特記された方に趣旨をお聞きしたい。

#### 【田中実委員】

整備をしている場所をよく通るがトラックや看板を見ることがない。草刈りをやった人が自前のトラックを持ってきているようなので、トラックに関しては必要ない。看板についてもゴミ捨て禁止の看板はあるが、他はほとんど見たことがない。1回、国府小学校の生徒の書いたポスターを見たが数日展示されただけで、すぐに撤去されて「ゴミ捨て禁止」の札に代わっていた。

#### 【増田委員】

看板は国府小学校の生徒に書いてもらう看板の分を計上していると認識している。トラックと散水車は見積書を見るとリース会社のものでないのでは疑問を持つのは当然だと思う。トラックはヒマワリを植えるときの苗の運搬や、看板の設置、撤去の際に使用している。金額について、7,000円の根拠がわからない。決算の時にその辺を明確に出してもらったらどうか。

#### 【磯田委員】

金額はともかく、リース会社から借りてくれば高額になる。必要な機器を持っている方から安価に借りるのは悪い事ではないし、手伝ってくれる方や作業してくれる方に対する費用弁償という意味においても、きちんと支払うべきものだと私は思う。看板についても、小学生の看板が並んでいる様子を何回か見ている。日数は定かではないが行われていること自体については妥当だと思う。

**【青山副会長】**

他に質疑を求めるがなし。

看板とトラックについては、減額しないことに賛成の委員に挙手を求める。

(挙手多数)

では、減額しないこととする。

**【中村センター長】**

事務局のほうで、トラックの使用時間や看板の設置期間を確認することとする。

**【磯田委員】**

前回、欠席したので「No.2 直江津地区ひとり親家族緊急支援事業」の取下げ理由を教えてください。

**【中村センター長】**

自分たちの活動はフードバンクじょうえつと似ており、規模も大きいので主な活動を任せたい。自分たちはボランティア活動として地域活動支援事業の補助金を受けなくてもできる範囲で活動を続けていきたいといった説明であった。

**【増田委員】**

昨年、備品を10万円分も買っている。今年しっかり活動するかどうかわからないので、事務局に確認を依頼した。

**【青山副会長】**

次に「No.3 五智公園の整備、有効活用支援事業」については、「写真パネルは毎年作成しているので必要なし。減額したほうがよい」という意見が出されている。

**【田中実委員】**

何か所か活動しているところを見てきたが、毎年パネルを交換しなければいけない状況なのか。

**【青山副会長】**

「写真パネルは毎年作成しているので必要なし。減額したほうがよい」という意見に

賛成の方の挙手を求める。

(挙手少数)

では、減額しないこととする。

次に「No.4 上越市「地域の宝」北前船がはこんだものガイドマップ改訂事業」についてはどうか。

【中村センター長】

「2万部の配布先を教えてください」という意見で、金額には影響しないので、事務局のほうから伝えたいと思う。

【古澤委員】

ただ配布先を知らせるだけではなく、配布先を一考してほしい。

【増田委員】

2万部作るのであれば、Jネットの会員が610人いる。そちらに配布して首都圏でPRしてもらうという方法もあるので、提案してみてください。

【中村センター長】

承知した。

【青山副会長】

次に「No.5 直江津区 若者活性化事業」については、不採択の理由を協議していただきたい。

【増田委員】

「参加性、発展性と項目別に採点しているので、皆さんの票が集まらなかった」でどうか。

(同意の声)

【青山副会長】

次に「No.6 マタニティー&子育て家族フェス事業」については、「なぜ直江津区提案か明確にすることを条件とする」「ボランティアの人件費は減額したほうがよい」「賃貸料は半分に減額したほうがよい」という意見が出されている。

【田村委員】

なぜ直江津なのか説明してもらえれば、賛成したいと思う。

収入の部、直江津子育て応援団協賛金1,000円で15社集めている。これは直江津だけなのか。他の地域は無いのか。その辺も疑問だったので記入した。

**【田中実委員】**

提案書の項目の中で、賃借料が安ければ自前で、高ければ出費と書いてあったので、最初から賃借料を減額しておいたほうがよいのではないかと。

**【磯田委員】**

減免申請は、公益的な活動をしている団体が施設の利用する際に、施設利用料を減免してもらえる制度である。申請していなければ100パーセント支払うものである。減免にならなければこれだけ必要だという認識でよいのではないかと。

また、ボランティアの人件費を減額したほうがよいとあるが、ボランティアというと無償のイメージされる場合が多いが、Q&Aにも書かれているような金額であれば、支払うことについては可能だと理解している。

**【増田委員】**

ボランティアの人件費だが、その会に所属している会員は、基本的に人件費は出さないことになっているが、そのことをこの会の人には理解しているか事務局で確認してほしい。その時に市で決めた人件費の単価が書いてあるが、単価の根拠が分からないので、それを確認していただければと思っている。

**【青山副会長】**

事務局のほうで、金額の根拠がわかるのか。

**【中村センター長】**

保育は市の基準と同額で、会場整理ボランティアは市の基準よりも安い金額で計上されている。

**【青山副会長】**

上越市の設定よりも低く提案されているということなので、特記事項としては除いてもよいということか。直江津区での提案が明確にすることと、賃借料を半分にすることはどうか。

**【増田委員】**

この書き方だとなぜ減額しないといけないか理由がない。単なる感覚になる。賃借料が半分という根拠がない。賃借料については、減免申請ができるという理由があるので、減免になったら決算でそのように報告してもらえばよい。人件費は募集要項を全部満たしているのに、あえて減額する理由がない。そのうえで減額の明確な理由があれば考えるがそうでなければ、このことについては特に決める必要はないと思う。

**【青山副会長】**

「なぜ直江津区提案か明確にすることを条件とする」という意見について、どのように取り扱うか協議をお願いしたい。

**【田村委員】**

直江津子育て応援団協賛金をもらっていることから、直江津区に提案したのではないかと解釈もできるので、良いほうに解釈し取下げてもよい。

**【増田委員】**

地域活動支援事業はどここの団体であっても、どここの区に申請してもまったく自由である。よって、基準に抵触するところはないと理解できる。

**【丸山委員】**

せっかく直江津区で提案されているので、直江津を元気にするためにぜひ実施してほしい。

**【青山副会長】**

「なぜ直江津区提案か明確にすることを条件とする」ことに賛成の委員に挙手を求める。

(挙手少数)

では、条件としないこととする。

次に「No.14 「新潟県鉄道発祥の地・直江津」の魅力発信事業」については、特記事項が4つある。意見は全て動輪の移設は認めない、物産市や講演会は認めてよいのではないかという意見である。他2件も含め計6人が採択だが動輪の移設は認められないとしている。

**【磯田委員】**

私は不採択にしている。動輪の話がメインで出てきているが、事業2についても、団体が鉄道まつりに参加することに対しての補助金の申請である。この書き方だと、提案団体が鉄道まつりの時に実施する事業のように読み取れる。鉄道まつりとの整合性が曖昧で、この提案事業自体は事業3のみがかろうじて採択してよいかなという感覚である。

**【古澤委員】**

事業1は不採択で、事業2と3は採択とした。私は鉄道まつりでこのイベントを行うと捉えた。鉄道まつりの日に行っていただければ、直江津の町を賑やかにする、あるいは、子どもたちも来て賑やかになるという観点から、こういった事業を実施してほしい。

事業1については、お金もかかるし何もよいことがないので不採択とした。

**【増田委員】**

提案団体が物販を取り仕切っていくということは考えていないと思う。この会としては、出展者として、仲間を募っていくつか店を出すということで考えていると思う。当日並んでいた店を見ると、この会ではできないと思う。

**【田村委員】**

市長が公約の1つとして鉄道博物館を考えているので、その中で動輪を移動したほうがよいのではないかと。今回、動輪と除幕式の部分だけ外して採択した。事業2と3については直江津の歴史を継承する必要性はあると思う。イベントの中身については、一考する必要があるかと思うが、会の方が直江津駅の歴史を後世に残すためと駅の賑わいのために動いていることは、評価に値するし、今後も鉄道を維持していくうえでも、事業2と3は子ども達に鉄道の良さを知らせる意味で大事な活動事業だと思う。

**【青山副会長】**

採択するが、動輪の移設についてのみ反対する人が6人いる。この取り扱いをどうするか意見を求める。

**【田村委員】**

条件を付けて採択してほしい。

**【青山副会長】**

資料No.1の採点総括表では、不採択とした委員が6人いる。また、採択とした委員8人のうちの6人が動輪の移設と除幕式については減額するとしている。よって、計算上、動輪の移設と除幕式について認めないと考えている委員が12人、認めている委員が2人となる。これを踏まえて、議論して決めていきたい。

**【磯田委員】**

物産市の所で計上している長椅子30台を1つの鉄道ブースだけで使うはずがない。自由通路の他の出店者の分も、ここでカウントしている可能性がある。今までは、鉄道まつりの実行委員会が仕切っていて、まちづくり上越からの補助金が出ていた。それとの整合性を気にしなければいけないと思っている。

**【丸山委員】**

自由通路の部分については、全て直江津鉄道振興会で出店するので、備品はこの会で用意する。直江津鉄道まつり実行委員会では用意しない。例年だと、自由通路の所は、

直江津鉄道まつり実行委員会が借りて、出店料をもらって行っていると思う。

**【磯田委員】**

今まで実行委員会組織として行ってきたが、今年は自由通路の物産市については、直江津鉄道振興会で全部仕切るということか。その時に参加者の出店料は取るのか。取るのであれば、収支に計上しなければならない。

**【増田委員】**

テーブルの借上料30台分は直江津鉄道振興会で支払うという話なのか、直江津鉄道まつり実行委員会でみるという話なのかがポイントだと思う。

**【古澤委員】**

採決を取ったらどうか。動輪については前回も話し合っている。

**【増田委員】**

この事業自体は8対6で採択としている。その中で、「条件として動輪と除幕式を除く」という人が半数以上なので、その件について採決を取ったらどうか。

物産市の展示の費用の出所の話で、販売は直江津鉄道振興会に任せるが、そこでかかった費用は、直江津鉄道まつり実行委員会はみないということになっているので、直江津鉄道振興会はお金がないので、地域活動支援事業に応募したという事情がある。本来は地域活動支援事業をあてにして考えること自体が間違っている。

とりあえず、動輪を認めないといっても附帯はどうするか賛否を先に採決を取ったらどうか。

**【青山副会長】**

事業1の動輪の移設と除幕式に関して、認めないことに賛成の委員に挙手を求める。

(全員挙手)

では、認めないこととする。

事業2の物産市について、認めることに賛成の委員に挙手を求める。

(挙手多数)

では、認めることとする。

本日の採択結果について、事務局へ説明を求める。

**【小川係長】**

No.14の動輪の移設工事費と動輪除幕式費を併せて268万8,730円を事業費から減額することになり、補助金額は30万9,000円となる。直江津区の配分額は9

70万円で、今ほどの採択審査により770万4,000円が採択となり、残額は199万6,000円となる。今年度は追加募集を行わないこととなっている。

**【青山副会長】**

以上で、地域活動支援事業の採択審査を終了する。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

**【中村センター長】**

本日配付した参考資料「令和4年度における市と地域協議会の取組について」は、前回会議での説明内容をまとめたものである。前回欠席された委員も多かったので、再度概略を説明させていただく。

・資料に基づき説明

次回以降の直江津区地域協議会の取組について、自主的審議を進めるか、地域活性化の方向性の作成を進めるかのいずれかと思うが、意見を伺いたい。

**【青山副会長】**

説明に対し質疑や意見を求める。

**【田村委員】**

過去に自主的審議で、三八朝市の問題について話し合った。私は何としてでも歴史ある台所文化を直江津に残したい。私も自分の案がある。ぜひ今後の自主的審議のテーブルに1つでも2つでもよいからのせてほしい。令和4年度にテーブルの上ののせて、枠組みとして地域協議会で決めていければよいと思う。もちろん、私たちが勝手に決められないので、関係団体等と相談しなければならない。その辺の連携もぜひ行っていきたい。

**【田中実委員】**

自主的審議事項で何を審議するか決まった場合、誰が中心になって提案をするのか。

**【中村センター長】**

委員が言われているのは、「地域を元気にするための提案事業」のことでよろしいか。地域として取り上げたことについて、地域としての役割、市としての役割を整理しながら提案書を作成していくことになるかと思う。その過程の中で事務局もサポートするが、最終的には地域協議会のほうで作成するようになる。

**【田中実委員】**

地域協議会委員が、事務局の力添えで作成することになると、協議会の1時間半から

2時間の中で文章をまとめるなど、1回1,200円の費用弁償でできるのか。議論し、作成するという事は、数時間ではできないし、民間企業でも企画・立案となれば相応の費用も必要となる。提案が出来た際には、別の手当てが出たりするのか。

**【中村センター長】**

経費としては、委員にはあくまで費用弁償しか出ない。ただ、今後の皆さんとの協議になるが研修に行ったり、講師を招いて研修会を開く場合の費用は市でも一部予算を計上しているので、必要に応じて予算を確保することは可能である。事務作業については、事務局のほうでまとめる形は出来るかと思うが、あくまで骨組み、方向性は地域協議会のほうで定めていただくことになる。

**【田中実委員】**

参考資料をいただいて、地域活性化の方向性の内容で様々な分野があるということで6つの事項が書かれているが、そういうことであれば逆に市のほうから、観光や福祉、子どもたちの未来等々への道筋をつけて各地域協議会の皆さんに協力を求めるということが本来の筋ではないか。

**【中村センター長】**

地域活性化の方向性の着手ということで、前回説明したが、例えば直江津区は市街地が多く、雪や棚田といった特徴はないかと思うが、歴史や文化、五智公園、鉄道といった特徴がある。その中で皆さんは直江津を代表するものとしてどのようなものを大切にしていきたいのか、どういうものを次世代につなげていきたいかというところを考えていただくということで、少しずつ議論を詰めていっていただければよいと思っている。

**【田中美佳副会長】**

田中実委員の言われるように広げてしまうと大変なことになるので、今まで話し合ってきたことの中から、田村委員が言われたように「これをやりたい」というものを1つに決めて審議したほうがよいのではないかと。あれもこれもと思いはじめると今まででさえなかなかまとまらなかったのに、さらに難しくなってしまうような気がする。

**【田中実委員】**

私は、あちこちに広げるつもりはない。単純に言えば、地域協議会に丸投げになるような感じになるのか。経費が出るのかを聞いているだけで、それが出ないのであれば、観光や福祉について市のほうからリストアップして、地域協議会委員が色を付けるとい

うような形で持っていきたいと考えている。実際、今言われた五智公園、鉄道の動輪、三八朝市を観光の目玉にするといっても、これだけで観光はできない。私が考えているものは20項目ほどある。それをコンパクトにまとめなければならないが、それを実行するにしても、誰がそれをまとめるのかで難航している。枠を広げるようなことは考えていない。

#### 【増田委員】

地域活性化の方向性は、細かい計画や予算がどうこうではなく、直江津を地域の人たちと地域協議会の人たちがどうしたいかを考えてほしいということである。それ以上深いことを求めてはいない。例えば、直江津の歴史である福島城や五智公園や海岸を大事にする程度の事を意見として出せばよいことである。そんなに深く考える必要はない。問題は、元気事業である。これは、「9月までに作って提案して下さい」となっている。それが認められれば、令和5年度に予算化して実際に着手できることになる。直江津の中で早急に予算化してやったほうがよいものがあるので、そのことは先に着手して、9月までに出す必要がある。直江津は自主的審議事項で3つあがっている。その中でまとめればよい。地域活性化の方向性はその後で構わない。9月までに元気事業をなんとか地域協議会でまとめたい。田村委員が言われたように直江津にとって三八朝市は非常に大切なものだから、ここに予算をつけてもっと活性化させたいと思う。もう一つは、福島城資料館を皆さんで視察してきたが、狭い所で間借りしながらトイレもないような状況で運営している。これは、直江津の遺産としてもっと大々的に光を当てなければいけない。ここに行政として予算をつけてほしいので、この2点について9月までに元気事業としてまとめて提案したいと思っている。田中実委員が月に1回でできるかと言われるが、必要であれば月に2回でも3回でも開催すればよい。地域協議会でいろいろな方法を考えて9月までに予算化に向けて動きたい。

#### 【磯田委員】

直江津区が今まで行ってきた自主的審議は、増田委員、田村委員が言われたように個別の案件として三八朝市、五智公園、福島城の課題はあるが、まちづくり構想として2期8年審議してきている。具体の1つ1つのことを元気事業で提案するというのもないわけではない。元気事業は、地域の団体が主体的に実行する、それに市が協力し、市の知見を求めて一緒に実行していくという事業である。

我々、地域協議会が提言してそれを実行していくという地域の道筋を作ることまで行

おうとすると、ロードマップとしてはかなり壮大で、今年の9月中に何とかなるのか。なかなか簡単な道筋ではないと思う。まちづくり構想は、地域活性化の方向性の作成に大きく関わっている。そのこと自体と解釈してもよいくらいの話である。どちらか選べと言っているが基本的には同じ目標である。地域協議会の議論の中でそれが全うできているかという、8年審議してきたけれどもできていない実態がある。そう考えた時に、元気事業でのまちづくり構想、ランドデザインと一緒に市と作っていく、考えていくということを提案したい。その道筋ができたとすれば、田中実委員が言われたように行政の人たちに下支えをしてもらって、我々や市民が協議していきながら進めていくという道筋があるのではないかと考えている。

#### 【田村委員】

確かに直江津まちづくり構想に7、8年かかっているが、磯田委員が言われていることは、三八朝市、福島城、五智公園といった下地がありながら、また、一旦棚上げにするような発言に聞こえる。1つでも2つでも議論の中にのせて団体と協議して進めたらどうか。もちろん、行政の力も必要になってくる。そういう方法で提案書をまとめてもよいのではないか。月に何回でも開催して、小グループで分科会のようなものを設けて、草案を作って全体の中で協議してもよいのではないか。そのように進めれば9月までにできるのではないか。

#### 【古澤委員】

自主的審議の中で先般、朝市はどうするかということで、地域協議会で支えていくという意思表示が皆さんから出た。これまで8年もかかっても駄目だったからどうということではなくて、会議の中では地域協議会で支えるという決意のもとにこれから進めていったらよいのかと考えている。

#### 【青山副会長】

皆さんから、あらゆる分野で1項目でもよいので提案してほしい。歴史、風土、自然の問題で提案してもらって、それを絞ったらどうか。自主的審議の中で消防団の在り方について、まだ回答が出ていない。直江津地区で最初に提案した問題が、まだくすぶっていて回答が出ていない。そういうことも含めて各自が1項目ずつ出したらどうか。それを絞って行って、提案に対する議論の中に入れていく。こういう方向性を見つけるまで、各自が提案を提出する方向でどうか。

#### 【中村センター長】

次回開催日の2週間前を提出期限として、事務局から様式を送るので、記載していただいて、それを集計して次回、進め方について協議していただくということでどうか。

**【増田委員】**

はっきりさせていただきたいのだが、それは、地域活性化の方向性の話なのか、自主的審議に関わることなのか。中身が違うので、同じ項目であっても書き方が違ってくる。福島城は資料館を正式なものにしたいということになるし、福島城の遺産を残したいというのは地域活性化の方向性である。5年度の予算に向けて実行できるものを提案して予算獲得をめざしていこうというのが私の考えである。できれば、その辺を明確にしてほしい。

地域活性化の方向性については、青山副会長の言われたようにそれぞれの意見を出してもらえば集約できると思う。その他にどうしても元気事業で5年度の予算案につなげたいというものがあれば、その思いを書いて出してもらえばよいと思う。

**【中村センター長】**

地域活性化の方向性は、自主的審議の合間や延長線に位置付ける形で、まず、自主的審議としてこの9月までにまとめたということがあれば出していただきたい。

**【磯田委員】**

こういう考えでこういうふうにいきたいがどうかと書いてもよいのではないか。

**【青山副会長】**

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

**【小川係長】**

- ・次回協議会：7月12日（火）午後6時30分から

**【青山副会長】**

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。